



Data 2022-3

監督・脚本: 賈玲 (ジア・リン)

出演: 賈玲 (ジア・リン) / 劉佳 (リウ・ジャ) / 張小斐 (チャン・シャオフェイ) / 沈騰 (シェン・トン) / 陳赫 (チェン・フー)

👁️👁️ みどころ

中国では『戦狼2 ウルフ・オブ・ウォー2』(17年)を超えて、『長津湖』(21年)が興行収入歴代トップとなる、1,000億円を突破!しかして、940億円の歴代第2位が本作だ。「これぞ中国映画!」の典型ともいえる、心温まる母子の感動作に注目!

「世界最高の興行収入を獲得した女性監督」の称号を手にしたのは、中年のお笑い芸人(?)、賈玲(ジア・リン)。2001年から1981年へのタイムスリップは、自らの体験に基づき、“あの時にできなかった母親孝行”をするためだが、なぜ本作は爆発的大ヒットをしたの?それは、あなた自身の目でしっかり!

涙、涙また涙の自分を再発見できれば、新たな人生観が生まれるかも?

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

在中国,『长津湖』的票房收入超过『战狼2』达到历史最高,突破1000亿日元,但是历代第2位就是票房收入940亿日元的本作品。大家关注可以叫做「这就是中国电影!」的典型,温暖的母子感动作品!

获得「世界最高票房收入的女导演称号」的是中年戏剧演员(?),贾玲。从2001年到1981年的穿越时空是以自己的亲身体会为基础,为了当时未能实现的母亲孝顺,但是为什么这部作品大获成功?用你自己的眼睛看看吧!

眼泪、眼泪如果能重新发现眼泪的我,也许会创造出新的人生观?

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

■□■女芸人出身(?)の女性監督・賈玲に注目!■□■

私が本作を鑑賞した1月8日の翌日、2022年2月から開催される、北京冬季五輪の開会式と閉会式の総合監督が、2018年の北京夏季五輪に続いて、張芸謀に決定したことが報じられた。それはそれで悪くはないが、思い切って、本作によって「世界最高の興行収入を獲得した女性監督」の称号を手にした賈玲を起用する手があったかも?2021年7月に開催された東京2020五輪の記録映画の総合監督に河瀬直美監督が起用されたことと対比しても、中国にはそんな思い切った選択肢があったのでは・・・?

とは言っても、本作の脚本を書き、監督し、主演した賈玲は女優ではない上、脚本家でも監督でもなく、中国の漫才である“相声”の道を歩んできた1982年生まれ的女芸人(?)。相声の舞台を踏み続ける中で舞台劇の発表を続け、中国版紅白歌合戦である「春節聯歡晩会(春晚)」に何度も出演する中で、中国を代表する若手喜劇役者の一人に成長したようだ。そんな経歴を見ても、エリートの道を歩んできた(?)河瀬直美監督とは大違いたが、これまでいくつかのドラマや映画小品を発表する中で、第1回的小品として発表したコント「你好,李煥英」の映画化を決定。亡き母への思いを元にした心温まる物語は、中国13億人民の心を鷲掴みにしたらしい。

近時の中国は、『戦狼2 ウルフ・オブ・ウォー2』(17年)、『シネマ41』(136頁)、『シネマ44』(43頁)に続いて、『長津湖』(21年)という戦争映画、国威発揚映画を大ヒットさせ、興行収入1,000億円を突破させている。もちろん、それは歴代トップだが、何と本作は興行収入第2位の940億円となったため、賈玲は「世界最高の興行収入を獲得した女性監督」の称号を手にするに。そんな中国映画がやっとなら日本、そして大阪で公開。こりゃ必見!

■□■タイムスリップは2001年から1981年へ!■□■

「タイムスリップもの」はある意味でバカバカしいが、『時をかける少女』(83年)や『サマータイムマシン・ブルース』(05年)のような面白いものもある。しかして、1982年生まれ、賈玲監督が、亡き母を思い出しながら作り出した「タイムスリップもの」たる本作の設定は、賈曉玲(ジャ・シャオリン)(賈玲(ジャ・リン))が2001年から1981年にタイムスリップするものだが、それは一体なぜ?ちなみに、賈玲監督は2001年に中央戯劇学院の相声科に合格したものの、合格一か月後に母親は死去したらしいが・・・。

本作冒頭、元気と明るさだけが頼りで、何をしてもまるでダメで母に苦労ばかりを掛けてきた娘、賈曉玲から、一流大学に合格したとの報告を聞いた母親、李煥英(リ・ホワンイン)(劉佳(リウ・ジア))は大喜び。レストランで開いた合格パーティーには大勢の友人、知人が出席したが、何とその合格通知書は偽造だったから、アレ・・・

もっとも、中国には「母親にとって娘とは、温かくや柔らかな中綿入りの上着のような存在」と言う、娘に対する誉め言葉があるらしい。母の李煥英はしょっちゅう学校から呼

び出されていたが、彼女は娘が健康に育てば十分と考える、どこにでもいる普通の優しい母だった。さすがに今回は賈曉玲も母親からの大目玉を覚悟したが、意外にも母親は今回も娘を責めず、むしろ慰めてくれた。そして、二人は自転車をも二人乗りして家へ急いだが、突然の交通事故によって全く意識のなくなった母親の生死は？賈曉玲は自分を責め、泣き続けたが、どうもそのまま眠ってしまったらしい。しかして、目を覚ますと、賈曉玲は一体どこに？そして、その姿形は？時は1981年、舞台は大きな工場の中だ。そこで賈曉玲を迎えた人物たちは？

■□■1981年の中国は工場、テレビ、バレーボール！■□■

1945年の敗戦からわずかに19年後、戦後復興から高度経済成長へ軌道に乗せた日本は、1964年の東京五輪を迎えた。そして、それまでは町の電器屋にある1台のテレビでプロレス中継を見ていた日本国民も、1963年の「天皇陛下ご成婚」を契機に、家庭でのテレビ購入が始まったが、中国は？また、1964年の東京五輪では“東洋の魔女”たちの大活躍で女子バレーボールが盛り上がったが、中国は？さらに、吉永小百合主演の『キューポラのある街』（62年）は、埼玉県川口市にある鋳物工場の中で、貧しくとも前向きに明るく生きる女子高生の姿が日本の映画ファンの心を鷲掴みにしたが、中国の工場は？1967年に始まった毛沢東の文化大革命が終焉したのは、1977年。北京電影学院の再開は1978年。そして、鄧小平による改革開放政策が始まったのも1978年だが、賈玲監督が設定した1981年の中国は？

空から地上に落ちてきた賈曉玲の下敷きになったのは、若い頃の母親、李煥英（張小斐（チャン・シャオフェイ））。李煥英が賈曉玲を従姉妹だと“勘違い”したことによって、ストーリーはややこしい設定を省略し一気に進み始めるから、賈玲の脚本は素晴らしい。現実の賈曉玲は自転車事故で母親、李煥英を失うまで一度も親孝行したことがなかったが、若かりし母、李煥英に再会できた今なら、あれもこれも親孝行を！そうすれば、きっと李煥英は幸せになれるはずだ！そこから始まる賈曉玲の親孝行まっしぐらの道は、まずはテレビの購入での大奮闘。続いて、職場のバレーボール大会での大奮闘だ。ライバルを押し退けるだけ、蹴散らす賈曉玲の知恵と行動力に注目だが、それを何とも面白い物語に仕上げているのは、労働者であることが最も荣誉であり、青い作業着と自転車がシンボルだったという1980年代の中国の時代状況だ。

三つ編みの髪に白いブラウス、そしてひざ丈のタイトスカートという李煥英の姿は何の飾り気もないが、『初恋のきた道』（99年）（『シネマ3』62頁）、（『シネマ5』194頁）のチャン・ツイイーのおさげ髪と赤い服が何とも言えず美しかったのと同じように美しい。本作にみる、若き日の母親、李煥英の美しい姿にも注目！

■□■結婚はどちらの男と？母親の選択は如何に？■□■

年頃の娘がいい男との結婚に憧れるのは、洋の東西、時代を問わず共通。すると、タイムスリップした賈曉玲の目から見れば、多少出来が悪くても、工場長の息子で将来の地位

と富が約束されている男、沈光林（シェン・グアンリン）（沈騰（シェン・トン））がベスト。そう考えていろいろと応援してきたが、よく考えてみると、もしこの2人が本当に結婚すれば、自分は生まれないことになってしまう。そんな“自己矛盾”に気づいたが、何の何の！ 現実に目にしてきた母親、李煥英の苦労を考えれば賈曉玲が生まれなくても、沈光林と結婚するのが李煥英の一番の幸せ。そう考える賈曉玲の奮闘は続いたが、さて、若き日の李煥英自身の恋愛事情は？そして、結婚話の展開は？工場長の息子沈光林と、ぐうたらな粗忽者、冷特（ロン・ター）（陳赫（チェン・フー））の二人が絡む結婚話での、賈曉玲の奮闘に注目！

ちなみに、ジャ・ジャンクー監督の『青の稲妻』（02年）（『シネマ5』343頁）では、改革開放政策がドンドン進み、若者の感覚も激変していく2001年の中国・山西省の地方都市大同を舞台に揺れ動く19歳の男女を主人公として描き、また、『帰れない二人』（18年）（『シネマ45』273頁）では、今や百戦錬磨の女渡世人に成長した（？）女主人公を描いている。高倉健や鶴田浩二のヤクザ映画を考えるまでもなく、ヤクザやチンピラ、そして渡世人は映画の主人公に最適だ。しかし、1981年当時の本作の冷特は“古惑仔”。これは「チンピラ」「暴漢」という意味だが、香港のベストセラー漫画『古惑仔』を映画化した『欲望の街・古惑仔』シリーズ（95～97年）との関連を含めて、いろいろと深い意味があるので、それは一人ひとりしっかり勉強してもらいたい。

■□■涙、涙、また涙！母娘の語らいは如何に？■□■

本作に主演した賈玲は、導入部での2001年当時の賈曉玲と、本格的にストーリーが展開する1981年当時の賈曉玲の両役を演じている。しかし、本物の賈玲は1982年生まれの40歳近いおばさんだから、本来そんな娘役は難しいはずだ。しかし、性来の童顔（？）とお笑い芸人として長年鍛えてきた経歴のおかげで、その演技力は抜群。1981年当時の若き日の母親李煥英を相手とする従姉妹役に徹して、諸葛孔明並みの知力（？）と、関羽や張飛並みのたくましい行動力（？）を発揮するので、それに注目！

本作の面白さの大半は中盤のメインストーリーだが、意外にも李煥英が沈光林ではなく、現実に賈曉玲の父親となったジア・ウェンティンとの結婚を選択し、彼との結婚証明書を見せてくると、ストーリー展開の意外性と、そこから生まれてくる感動はクライマックスに！この選択は決して賈曉玲が望んだものではなかったが、そこにみる母親の幸せそうな姿を見ると、賈曉玲はいよいよ2001年に戻る時が来たと考えたのは仕方ない。しかし、そこで交わされる母娘の対話とは？また、そこで賈曉玲が気づいたある真実とは・・・？そこで、涙、涙、また涙となることは必至だ。そんな自分を再発見できれば、新たな人生観が生まれるかも？

2022（令和4）年1月13日記

中華人民共和国駐大阪総領事館主催

「私の好きな中国映画」作文コンクール 三等賞入賞

2022年は、1972年9月29日の田中角栄と周恩来の握手に象徴される日中国交正常化50周年の年。そこで中国駐大阪総領事館は、中日両国民の理解と信頼を促進するために、2月から「私の好きな中国映画」作文コンクールを開催した。

これは私にとって絶好のテーマだったうえ、1月8日に観た、賈玲（ジア・リン）監督の『こんにちは、私のお母さん（你好，李焕英／Hi, Mom）』に大感激していた私は、これをネタに小学生以来の作文コンクールに挑戦！400字5枚で完成させた作文はそれなりの力作、自信作になった。

そして、2022年8月16日、「文章の構成、表現の力、明確な主題、という3つの観点から、慎重かつ厳正な審査」を経た結果、見事、三等賞（一等賞1名、二等賞2名、三等賞3名）をゲット！以下、その全文を紹介する。また、同作の評論は、『日本と中国』（2022年3月1日・No.2262）の「中国映画を語る<60>」に掲載されているので、それもあわせて紹介する。

こんにちは、私のお母さん

全国順次公開中



©2021 BEIJING JINGXI CULTURE & TOURISM CO., LTD. All rights reserved.

中国では『戦線217年』や『長津湖』（21年）等の戦争映画が大ヒットしているが、日本人が最も愛するそれは、徹底した純朴さで愛した日本を徹底し出させた『初恋のきただ道（我的父親母親）』（00年）や『山の郵便配達（那山那人那狗）』（99年）。おとことう一つ、中国全土を感動と涙に包んだ大催涙弾映画『春の絆（暖春）』（08年）もあるが、近時『こんにちは、私のお母さん（你好，李焕英）』（21年）が歴代3位の興行収入940億円を突破！NHKの朝ドラ『カムカムエヴリバディ』に見る母と娘の情愛も興味深い。太刀気味で出来の悪い娘、賈玲（賈玲）は2001年に大好きな母親、李焕英（劉佳）を失った自分を責め、泣き崩れながら眠ってしまったが、目を覚ますと81年タイムスリップ！81年の東京五輪では「東洋の魔女」が大活躍したが、81年の中国でも女子バレーが大人気だ。文化大革命が終焉し改革開放路線が始まった工場では古い作業着と自転車が生

中国映画はやっぱり“大催涙弾”映画が最高！
なぜ賈玲監督は“世界最高の興行収入の女性監督”に？

監督・脚本：ジア・リン
出演：ジア・リン、チェン・シャオフェイ、シェン・トント、チェン・フ、リウ・シア
製作年：2021年 / 中国
映画長：128分
原題：你好，李焕英
配給：Tiger Pictures Entertainment, ハーク
後援：中華人民共和国駐日本国大使館文化部



ンボルで、労働者（そま）に中国人民の誇り。（三編みの髪に白いブラウス、ひざのタイストーカー）という可憐な姿で登場する若き日の母親（張小斐）に注目。今度こそ母親孝行をし、さっさと決断して賈玲は職場で一番いい目標を掲げて大奮闘だが、その筆は「若き日の母に会えたら、あなたはどうしますか？北京電影学院出身の英才が輩出する中国で、相声（漫才）のお笑ひ名人、賈玲が自分の体験を元に脚本を書き監督した本作ではそのテーマがストリートに表現される。後半には本業の相声も登場し、バタ喜劇的な展開を見せるがさぞ、「母親にとって娘とは温か（あたたか）な中絶入りの上着のような存在」は娘に対する善い言葉だが、なぜ私は81年にタイムスリップを？今、煥英（工場長の風子と結婚してしまえば、古惑仔（チンピラ）だった父親との間に生まれ自分の存在は？そんな状況下、ラストに向ける決断は、「平凡で偉大なすべての母親に捧げる」という単純なテーマを象し、母親の語らうに涙する自分を再発見できれば、きっと新たな人生観が生まれるはずだ。

「タイムスリップもの」は面白い！

賈玲監督の『こんにちは、私のお母さん (你好，李煥英)』に涙、涙、また涙！

弁護士 坂和 章平

◆中国には2つの顔がある。威武高な軍事大国・経済大国の顔と、笑顔がよく似合う、素朴で質素な庶民の顔だ。2022年2月4日に開幕した北京冬季五輪の開会式を演出した張藝謀(チャン・イーモウ)監督にも、「幸せ三部作」と呼ばれる、『あの子を探して (一個都不能少)』『初恋のきた道 (我的父親母親)』『至福のとき (幸福時光)』の顔と、ハリウッド進出を狙った『HERO (英雄)』『LOVERS (十面埋伏)』等の2つの顔がある。緑色のレーザー光線の乱舞から始まった開会式を見て、これは今や最先端のAI能力、デジタル技術を誇る中国の国威発揚狙い！一瞬そう思ったが、あれは多くの若者たちの長期にわたる訓練の成果だと知ってビックリ。米国は1776年の建国以来約250年の歴史しかないが、ハリウッド映画繁栄の歴史は長い。他方、「中国映画ここにあり！」を世界に知らしめた映画は、文化大革命の混乱後に再開された北京電影学院を82年に卒業した陳凱歌(チェン・カイコー)の『黄色い大地 (黃土地)』と張藝謀(チャン・イーモウ)の『紅いコーリャン (紅高粱)』だから、わずか40年前だ。しかし、田中角栄と周恩来の握手に象徴される1972年の日中国交正常化以降少しずつ日本に輸入されていた中国映画は、この両作によって一気に注目を浴びることになった。そんな中国でお近時『戦狼2』『長津湖』等の国威発揚戦争大作が大ヒットしているが、同時に『こんにちは、私のお母さん (你好，李煥英)』がヒットし、賈玲(ジア・リン)は突然「世界最高の興行収入を獲得した女性監督」になってしまった。それは一体なぜ？

◆「タイムスリップもの」は自由な発想と奔放なストーリー構成が可能だから、娯楽映画向き。しかし、北京電影学院出身の英才が輩出される中国で珍しく“お笑い芸人”出身の賈玲(ジア・リン)の商業映画デビュー作は如何に？母親にとって娘とは温かく柔らかな中綿入りの上着のような存在。娘に対するそんな着め言葉がある中国では、太っちょで出来の悪い娘、賈曉玲(ジア・シャオリン)でも母親の李煥英(リ・ホワンイン)は「健康に育てば十分」と考えていた。しかし、いくら母親を喜ばせるためとはいえ、一流大学への合格通知書を偽造するとは！合格パーティーの場でそんな悪事が露見したからコトは最悪、母娘バトルの展開は如何に？そう思っていると、アレ、平凡で偉大なすべての母親に捧げる「テーマにした本作は、監督自身の体験に沿って2001年から1981年に突然タイムスリップし、本格的物語がスタートする。

◆鄧小平が主導する80年代の改革開放政策が始まる中、81年の中国の工場では青い作業着と自転車ギンボール。労働者こそ中国人民の誇りだ！若者たちの顔はそんな確信で輝いていた。日本人は『初恋のきた道』で見た、赤い服を着たお下げ髪の可愛らしい章子怡(チャン・ツイイー)が大好きだが、本作では若き日の母親(張小斐)の三つ編みの髪と白いブラウス、膝丈のタイトスカートに注目！今度こそ母親孝行を。タイムスリップし、若き日の李煥英(リ・ホワンイン)に再会した賈玲(シャオリン)はそう決心し、職場で真っ先にTVを買い、バレーボール大会で優勝するという目標を掲げて大奮闘！1964年の東京五輪では「東洋の魔女」の大活躍に日本中が湧いたが、女子バレーは81年の中国でも大人気だった。職場の大会で活躍した工場長の息子と結婚できれば、玉の輿！そして、それが母親のベストの生き方！そう決めつけた賈玲(シャオリン)は意外な底力を発揮していく。さすが「相声」出身の監督らしく、笑いの取り方も絶妙だ。

◆若き日の母に会えたら、あなたはどうしますか？本作後半は、そんなテーマに沿った心温まる物語がストリートに続いていく。一見「チャップリン劇場」と見間違えるような「相声」も登場し、大笑いを誘うドタバタ模様も見せるが、その展開は如何に？1949年生まれの私は2022年1月に73歳になったが、父親は103歳までチョー長生きしたし、母親も90歳で天寿を全うしたから、2人ともこの世に未練はなかったはず。しかし、「親孝行したいときには親はなし」の諺通り、私の心の中には賈玲(ジア・リン)監督と全く同じ想い(悔い)がある。そのため、英会話を軸とし、三世代の母娘の情愛を綴ったNHKの朝ドラ『カムカムエヴリバディ』に涙していた私は、本作の脚本を書き、監督、主演した賈玲(ジア・リン)にいたく共鳴！ラストでは涙、涙、また涙状態に。

◆20歳前後の賈玲(シャオリン)は2001年から1981年にタイムスリップし、20歳過ぎの母親に再会したが、私なら30歳代でバブル成長を続ける80年代の日本にタイムスリップしたい。そして、60歳前後の母親と再会し、賈玲(シャオリン)と同じような、いやそれ以上の母親孝行をしたい。コロナ禍で閉塞感が強まる現在の日本には魅力がないし、01年に始まった小泉改革以降少し持ち直しかけた日本の底力も尽き、低迷が続いている。しかし、80年代、昭和末期の日本はとにかく元気。土日、祝日も関係なく24時間働き、24時間遊んでいた。その当時の日本にタイムスリップし母親に会えたら、さあ私はどんな母親孝行をするのだろうか？